

令和元年度 第2回 南丹市健康づくり推進協議会議事録

日時：令和元年12月17日（火）

午後2時～3時30分

場所：南丹市市役所4号庁舎2階会議室

【出席者】 船井医師会 木村茂委員 / 南丹市議会厚生常任委員会 平田聖治委員 / 道の駅連絡協議会 中井壯委員 / 南丹市PTA連絡協議会 榎本文貴委員 / 南丹市老人クラブ連合会 中澤義久委員 / 南丹市女性会 川勝久美子委員 / 南丹市食生活改善推進員協議会 谷幸委員 / 健康経営をしている事業者 二九精密機械工業（株）八木工場 小泉美保委員 / 南丹市商工会 八木あけみ委員 / 南丹市立小学校長会 船越護委員 / 包括協定大学代表 明治国際医療大学看護学部 佐藤裕見子委員 / 京都府南丹保健所保健室 渡邊温美委員 / オブザーバー 南丹市社会福祉協議会 包括支援センター管理者 本多智子氏

【欠席者】 京都府口丹波歯科医師会 岡田英樹委員 / 南丹市体育協会 齋藤昌久委員 / Nantan健歩会 山下秋則委員

【司会】 事務局（保健医療課長）

議事録—委員敬称略

【事務局】ただ今より第2回になります南丹市健康づくり推進協議会を開始したいと思います。年末に入り非常にお忙しいなかお集まり頂きましてありがとうございます。

【会長】皆様ご苦労様です。足元の悪いなか皆さんご足労いただきありがとうございます。今回も活発なご意見をいただいて健康づくりを推進する意見を述べて頂ければと思いますのでよろしく願います。

【福祉保健部長】この4月の組織体制によりまして保健医療課も含めまして担当いたします事になりました。皆さんにはもっと早い段階でご挨拶申し上げるべきところではございますが、本日にになりました事をご了承いただきたいと思います。4月に入り何かと忙しい中、2回の南丹市健康づくり推進協議会にご執事を賜りまして本当にありがとうございます。日頃から市民の健康づくりの進にご支援・ご協力いただいていますことを改め厚くお礼申しあげたいと思います。本協議会におきましては市民の健康づくりについて活発に意見が交わされていると聞いています。そのなかで健康に関する各種の団体が勉強していただきまして南丹市の健康づくりができないかという提案の元、これまでに子どもたちの生きる力をはぐくむ弁当の日の推進や、タバコの受動喫煙防止事業、歩くだけで10歳若返るインターバルウォーキングの3つの事業を中心に推進されてきたところがございます。弁当の日の取り組みに関しては、見ることは食べることであり自ら弁当をつくる子どもを中心に家庭や地域を巻き込み地域の連携強化、団体の活性化につながっており健康づくりの根幹にあります食を通じて皆がわくわくするすばらしい取り組み]となっています。また10年若返るインターバルウォーキングについては今年度、明治国際医療大学の地域貢献のなかで大学の事業の中で実施をしていただき、学生の活力をもらいながら市民の健康寿命

の延伸につながる素晴らしい取り組みが始まりました。それぞれの事業が順調に取り組みをされていますことに対して改めて感謝申し上げたいと思います。南丹市では第2期総合振興計画を策定し、各政策を連携させる取り組みのひとつとして「なんたん健幸都市プロジェクト」を立ち上げております。このプロジェクトでは市民が生きがいをもち健やかで幸せに暮らせる町づくりを推進できる取り組みを協議しているところですが、本協議会は地域での取り組みの中核を担っていただいている組織につながるものとして期待しているところでありまして、さらに本協議会に参加いただいている皆さんや関係機関との連携のもと、住んでいるだけで健康で幸せになる町を推進してまいりたいと考えておりますので、どうか引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【事務局】さっそく議事のほうに移らさせていただきたいと思いますが、本協議会第5条の規定によりまして会議の進行は会長が行うということになっております。以降議事進行は会長にお願いしたいと思っております。合わせまして条例会6条の規定で本協議会につきましては委員の半数以上の出席がなければ開催できないとなっておりますが、本日欠席委員については3名の欠席報告を受けています。半数以上に達しておりますので本協議会は開催することをご報告させていただきます。それでは会長よろしく申し上げます。

【会長】よろしく申し上げます。

第2次南丹市健康増進・食育促進計画進捗状況の報告をお願いします

【事務局】失礼します。進捗状況の報告ということで、平成29年3月に第2次南丹市健康増進・食育推進計画を策定をしまして、健康寿命の延伸と生活習慣病の発症・重症化予防、若い頃から健康食づくり・食育推進と、この3つの基本にし、栄養と食生活、身体活動・運動などの7つの分野の取り組みとライフステージ別の取り組みとそれぞれの評価指標を定めており、平成30年度の達成のほうを簡単に報告させていただきます。

1番の栄養と食生活について朝食を食べる人は増えてきているのかなと思いますが、まだ特に乳幼児、小学生、中学生を100パーセントに定めていまして、そこまでには達していない状況です。特に小学4年生の健康アンケートを見ていただきますと年々数値が下がっていて毎日朝ごはんを食べる子どもさんは減ってきているのかなと伺えます。

次に2番の身体活動と運動では資料の(4)から(6)あたりで大人の運動習慣をみているのですが大人に関しては30分以上の運動週間があり、1日1時間以上身体活動があるが少しずつ増えている現状であります。逆に子どもの場合は毎日、外遊びをする子どもやテレビをみる時間の改善ができていない現状です。3番の休養とここの健康については育児不安について調査したところ乳児期に少しずつ増加しています。睡眠による休養が十分でないと感じる人の割合では中高年が比較的改善してきているが、75歳以上の方は悪化傾向であることがわかります。次に4番のタバコについては、目標値には達していないが喫煙者の40歳から65歳以上は減少しています。妊婦の喫煙率も下がってはいるが妊婦のすべての人が吸わないのを目標にしているためもう少しという状況です。

毎日飲酒する休肝日のないひとは減少しています。そのうち毎日飲んでいる人のなかで3合/日以上の多量摂取の割合が改善してきています。

3番の歯の健康について、1歳半の歯科健診ではむし歯の罹患率が減少、3歳半は横ばい。毎食後に歯磨きをする小学校・中学校では割合が上昇し成人では改善しています。4番の生活習慣病については健診結果で有所見と判定された割合から高血圧は20歳から39歳男性は改善しています。

糖代謝の有所見者はすべての年代で割合が増えています。運動する人の割合は少しずつ増えてきてはいるもののまだまだ食生活も合わせ運動もしっかりと取り組みを進めていく必要があります。がん検診の受診率の目標は50%以上としているが横ばいもしくは検診によっては減少しているが、がん検診後の要精検の方が病院受診された率は改善されています。

ライフステージごとの取り組みについては、妊娠期については3つの評価指標ともに達成をしています。乳児期に関して午後9時までに寝かせる家庭は減っており49.5%と半分もない状況。つぎの学童期・思春期では朝起きる時間をみているのですが朝7時までに起きる子どもが減ってきている状況で、テレビやゲームの使用であったり、あるいはこの評価指標には使っていないがこの健康に関するアンケートではスマホをどの程度使用するかもきいており、6割のお子さんがスマホを持っており、そのうち2時間以上使用しておりそのあたりのスマホやゲームの時間とひよっとしたら夜更かしをして翌日7時までには起きられないのかなと考えております。

糖尿病に関しては有所見者が増えており、女性の貧血は改善。最後になりましたが壮年期の特定健診の受診率を増やす取り組みをしています。生活習慣を改善する意志がないという人が減ってきています。

【会長】ありがとうございます。今までのところでご質問ご意見いかがでしょうか
わりと運動習慣が改善されているのに肥満や糖代謝が悪くなっていますよね。あるいは血圧もそうですけど、どうとらえたらよいでしょうか

【委員】確かに質問票でも増えてきているというものの、もっともっと体を動かすことの啓発をすすめていくことと運動だけでなく食生活と生活リズムの問題も合わせて働きかけをしていかないと糖代謝の改善には結びつかないと思います。

【会長】ほかにいかがでしょうか

【委員】2番の身体活動・運動の5番の1日に1時間以上の身体活動がある人の割合が書いてあるのですが、身体活動って運動してそれとも仕事も体をうごかしているのが身体活動とえば身体活動ですが、どういうとらえ方で進んで自分から健康のため運動する人が5割くらい居るのか、それとも普段生活している、たとえば買い物に行くとき歩くを入れているのか、身体活動という表現がわかりにくいかなというところがあるかなと思いますけどどういうふうにとらえたらいいですかね

【事務局】実はこの(4)(5)までは健診中の生活習慣の質問票の項目で、問診する際は運動習慣とは区別して運動だけでなく体を使った仕事であるとか運動にこだわって聞いているではありません

【会長】ほかにいかがでしょうか。睡眠に関してはライフステージごとの③の学童期・思春期のところで7時までに起床する子どもが極端に平成29年から平成30年減っていますよね。これ

ってスマホを持っている率が60%以上と言ってはりましたけど90%から60%に減るってことは由々しき問題やと思うんですね。もし、加えられるならスマホ対策っていうんですかスマホ首やスマホによる目の障害といろいろ出てきていますよね。最近話題として。どうでしょうか。

【事務局】スマホ対策をしていかないといけないと思います。学校と一緒にこういった対策をやっていかないとと思いますので、委員のほうからぜひご意見いただけたら嬉しいなと思います。

【委員】実際に寝る時間も遅くなったり朝起きる時間も遅くなったりしているような実態で、早寝早起き朝ごはんということと取り組んではおるんですけども、PTAの保護者の方々と一緒に。時代的にはスマホが普及してきて特にゲームに依存している状態が増えてきているので、スマホによる首の炎症等々も見られますので、家庭と一緒に連携して定期的にチェックするのがいいのかわからないです。家庭の方々と一緒にコメントを書いていただいて集中期間を特に休み明けであるとか連休明けとかGWあけとか特に集中して起きる時刻や寝る時刻を意識させる取り組みは進めているんです。ただスマホもうまく使うとかプログラミング授業も4月以降入ってきますし、ICTをうまく鉛筆やノート代わりに使っていかなければならないですし、情報を収集したり自己で分析していく力をつけていかないとこれから生きていく力にはならないので、だからそういう意味でうまく使う、また不審者の接触を怖いものやと警察と連携した取り組みと合わせて総合的な取り組んでいきたいなと考えて取り組みを進めているところです。以上です。

【会長】ありがとうございます。たとえば情報をみるためにはそれはやらあかんと、やらなあかんけどやったら悪くなると、姿勢とかね。もしそういうことでしたら、姿勢ですね。どんなふうにもみたらいいのか。

【委員】以前テレビを近くでみていて視力が悪くなるということがありましたよね。あまり近くでみると近視になるといったことはあるんじゃないかと思うんですけども

【委員】ブルーライト遮断するにはメガネが必要ですし、見るだけで興奮してしまうんですね。寝ながら使用していたら寝れない等の影響もあるので、その周知を南丹市で取り組まないといけないのかなと。学校もやっている、南丹市も取り組みをして。この数値をみたら1/3減少している。

【委員】会社のほうでは従業員の健康管理というところでフィルターをモニターに使用してる。いまお話しにでている子どもの部分というのは、学校であったり地域がひとまとめになってこういう与え方をしましょうとある程度提示して一緒に引っ張っていく取り組みが必要なのかなと子育てをしてきたので。お友達は高学年から携帯をもっている頃でしたが、自宅では高校生になるまで持たせておらず、リビングにはパソコンがあり目のとどく範囲でパソコンを使用する環境を作っていた。子どもさんが少しずつたら1歳くらいからあてがって無意識に刷り込まれてしまうようなことはよろしくないだろうと思うので、世代に合わせた子どもさん、親御さん、周囲に向けて指針みたいなものを「むやみに与えないようにしよう」とか危険性を明示して保護者にもまず理解してもらおうとか、「部屋のリビングに定位置を決めて必ず使いましょう」「何時になったら充電して部屋には持ち込まないでおきましょう」といったことを親御さんとお子さんと話し合える手助けができる市としてできる取り組みが必要でないかなと保護者の立場としては感じます。もう一点付け加えさせてもらいます。やはり、光刺激を夜に長いこと受けてしまうと、

睡眠がとりづらくなるというのはもうあるわけなんですよね。だから、スマホを使う時間について、できれば日没と同時に使わない。テレビよりスマホの方が光が明るすぎて睡眠を妨げて眠くならない、昼間と間違えてしまう。そういったところで時間制限というか、特に夕方以降の時間制限というのも非常に効果があるのかなと思うのですが…できれば実態を調べていただければ…睡眠との関係というところを。

【会長】実態を調べるというのはものすごく大事なことだと思いますけど、先ほど言われた早寝早起き朝ごはんというのと同じような標語をね、作ったらわかりやすいかなというような気もしますけどね。で、具体的にじゃあ何時から何時までどうするとか、そんなことはまた学校学校で子供に対してであって、僕らは親御さんに向けて発信するような何かガイドラインみたいなものを作って、標語を作る。わかりやすい標語を作って、これからは ICT,そこから避けては通れませんので、絶対それは必要なやけど健康も必要ですもんね。だからそういう意味で、僕らの方からは健康から見たパソコンやスマホの扱い方みたいなものを作る必要があるのかなという気がするんですけど。委員さんどうでしょうか。

【委員】うちも大学生、高校生がいるんですけど休みの日なんかもう一日中スマホのゲームをしたりユーチューブを見たり、大丈夫かなと思うくらいずーっとみえています。親が言っても全く直す気がない、悪いとわかっていても楽しい方に行ってしまうのでそこらへんが、誰が言うたら聞くとかではなく、やはり自分がわからないとアレなんですけどね。何かがあってこういうこともあるんやということを頭の中に置いてやって行かないと聞かないというか…あれだけ楽しいもの、ゲームなんかもエンドレスに続くようなものもある中で、やめろと言っても無理なことなので難しいとこだと思います。

【委員】ゲーム中毒って、あれ病気になってますので、どっちかいうと、僕ら男子トイレに行ったら、トイレの立ってるところに虫がついてる。おしっこするとき、その虫に向かっておしっこするんですよ。そういう仕掛け、僕らが言ってやらせるんじゃないくて、自分で「あ、これ面白いやん」てやらなくするような、自分で決定させるような何か仕組みを考えられたらいいと思うんですけど。それは、この協議会の中で話し合っただけでアイデアを出していただくということで、事務局にはガイドライン的なところを、たたき台を作ってもらって、それについてまた議論するというのがいいことかなーと思いますけど、どうでしょうか。

【事務局】今、この指標とか内容の中で低くなっていた部分というのは、この中でご意見をいただいて、少し市の中でも検討していく材料にしたいなと思っておりますのでご了承をお願いします。

【会長】ありがとうございます。子供のことにしましてはまたよろしくをお願いします。それでは時間になりましたので次に行きたいと思います。南丹市健幸町づくりの4つの柱をお願いします。

【事務局】食育推進計画の指標でちょっとだけ皆さんに目を…食育推進計画の指標について8ページになります。健康増進計画の方とけっこうかぶっているのですが、その辺は先ほど報告させていただいた通り食育推進計画、食は人づくり・町づくりという基本理念のもとに4つの方針でしているんですけども、中でも頑張っ取り組みたいなと思ってい

る、「朝ごはんを必ず食べよう」の割合が全体的にちょっと減ってきているというのは、先ほども出たんですけど、生活習慣の乱れ、夜更かししちやっただ朝起きにくくなって朝ごはん食べにくってというのがすごく影響しているのかなと、今も皆さんのご意見にありましたように、テコ入れしていかないといけないのかな？食だけではなく、生活習慣も見直していかないといけないんじゃないかなとことがあります。あと、食の方で頑張りたいと思っている野菜摂取と減塩について、平成30年度については、食事診断の中の野菜摂取の割合が下がってたなというのが残念な結果になっております。塩分摂取の部分は塩分量そのものは少し改善傾向なのかなというところはあるのですが、ナトリウムとカリウムの比率の方がちょっと下がってきている。先ほどの野菜摂取が減ってきているということにも関連して出てきているのかなと思っているところです。また後から弁当の日の報告もさせていただくのですが、その中でアンケートもとっている中で食事作りの手伝いをする小学生の割合が少し改善してきているというのが、お弁当の日の活動がそこに影響しているのであれば有難いなあと思っております。下の方の、家族の人と食事のことについて話をする小学生の割合はちょっと下がっているかな、まあ上がったたり下がったりということはあるのかなと思っています。一番下の学校給食1食あたり一人あたりの残債量というのが、平成30年度の数字が今入ってないんですけど、1.23と入れていただいて、こちらの方はだんだん少なくなってきたのは、良い傾向だなあと思っているところです。以上です。

【会長】弁当の日は影響あるのかなあ一番下のやつね。それやったらいいことですね。それでは次お願いします。

【事務局】健幸町づくりの4つの柱ということで、今、健康増進計画と食育推進計画の進捗状況を皆さんにお話ししたところですが、南丹市の課題が見えたところでもあります。昨年、健幸都市南丹ということで、暮らしているだけで健康で幸せになれる町づくりを目指してということ13ページです。追加資料で出させてもらってます。暮らしているだけで健康で幸せになれる町、健幸都市南丹を目指して、皆さんでこの健康づくり推進協議会では健康に関する15団体が一堂に会する会議でございまして、みんなで健康づくりについてお話をしたり、目指すものをもっとしっかり目標を固めていこうということで、昨年カフェミーティングをさせていただきました。それで、カフェミーティングをした結果については15ページ最初のページにいろいろ出た意見を集約させていただきました。こういう形でいろんな意見を集約して南丹市健康づくり推進協議会では4つの柱を持って健康町づくりを進めて行こうということで、13ページの上の図ですが、運動習慣づくり、食育。食育の中でも健康づくり推進協議会では生きる力を育むということでそれをがんばって進めて行こう、地域づくり健康づくりを進めて行こうということで4つの柱を決めさせていただきました。今回、第2回目については、毎年健康増進・食育推進計画の進捗状況をみんなで共有しようということでございまして、より柱について説明をさせていただいて今後とも健康づくりのほうを進めて行きたいということで、今日はこのお話を入れさせていただきました。

【会長】ありがとうございました。カフェミーティングに参加しておられない方もおられますので、何か質問があればいかがでしょうか。

【事務局】すみません。4つの柱なんですけど、運動習慣づくり、食育(生きる力を育む弁当の日)、地域づくり、健康づくりという4つの柱なんですけど、健康づくりというのがちょっと全体にかけすぎているなあということで、健康意識づくりとかそういう形にしていったら、いろんな取り組みがもっと意識的なことで進みやすいのではないかという意見をいただいているので、また考えておいていただいたり、審議をしていただけたらと思います。

【委員】健康意識づくり？

【事務局】意識づくりにしたらどうだろうという意見。たとえば先ほどのスマホの問題でしたら、とにかく健康のためにスマホの時間を決めようということなんですけど、意識を変えていく、意識づくりというのをそういうところへんで健康づくりとするとあまりにもぼくっとしているのではないかという意見をいただき、提案をさせていただきたいなと思っています。

【会長】どうでしょうか？今事務局からそういう提案がありましたけど。4つの柱ではなくて3つの柱にして、健康づくりを真ん中に持ってきてても悪くはないよね。で、先ほどのスマホのことを入れるなら、確かに意識づくりでスマホをメインにおいて事業を進めるというのもいい方法やと思いますね。どうでしょうか。委員さん。

【委員】別にスマホとかそういう観点からだけでなく、運動しなあかんあとか、やっぱり意識づくりというのは大事だと思います。

【委員】私もね、同じ意見です。

【委員】老人クラブとしての健康づくりというのは、一番メインのテーマに入れておきまして、入れてるんですけども、掛け声だけで具体的に何をしたらいいか、実践して行こうという、そういう具体化ができてないのでここで皆さんに聞いてもらえるような話が何もできなくて。

【会長】それこそ、インターバルウォーキングを取り入れられたら…せっかく先生がおらはるし、今度行きますわゆるてもらったら、すぐやってくれはると思いますし。それでは、少し時間も押していますので、またそんな風に考えてもらって意識づくり、いいかもしれないですね。4本柱で、それでどうでしょうか？もし何かこんなのがいいというのがあれば、次の機会にでもお話ししていただければと思いますのでよろしくお願いします。それでは、3番、健康づくり推進協議会の活動報告をお願いします。

【事務局】よろしく申し上げます。1ページの方からになります。「令和元年度生きる力を育む弁当の日」の中間報告として報告をさせていただきます。今年度の実施につきましては4校の方で実施しております。まだ取り組みを進めている途中でありまして、まだ続いているんですけども、ちょっと特徴的なところだけを主に報告させていただきます。

八木東小学校におきましては、同じスタイルでずっとしているんですけども、本年度におきましては弁当の日のお便りとかを積極的に出していただいているようなところであるのと、弁当の日が12月9日にすでに終わっているんですけども、以前はいろんな方に公開的に、食改さんとかいろんな方に見ていただくような形になっていたんですけども、学校の方で一度基本に基づいて実践するということで作ったお弁当がキャラ弁だったりいろいろ手の込んだものになりがちになって、キャラ弁が評価されるといった傾向も少し見られているので、そうではなくてやはり一生懸命作ってきたどの弁当も生きる力につながっているというところを、もう一回原点に戻って各学

年の中での交流であるとか、1年生2年生の中での交流というか、その中で考えながら取り組みをするということで今回はそういう形で基本に基づいた実施というふうに考えて行っておられます。

続きまして、園部第二小学校の報告になります。第二小学校の方は目標が、食に関する正しい知識を身に着け好ましい食習慣を目指す児童の育成ということで大きな食育の目標を掲げておられまして、今年度、4月年度初めから弁当の日の取り組みにおきましては、すごく計画的に取り組みをされているような状況です。6年生におきましては、PTAの取り組みの中で竹下先生にDVDの観賞をされた中で保護者さんに対しての目的の説明、確認をしっかりと行っておられました。その後も栄養の方の授業でありますとか、食改さんが入る取り組みでありますとか、ずっと行っているような形です。また、長期的に長いスパンで実施を行っておりまして、年が変わって1月には買い物体験、弁当の日というような流れになっております。また、1月21日には小学校の方で食に関する指導授業の研究報告会というのをされる予定で、その中で公開授業の方も実施される予定です。その中で保健医療課の方も少しお時間をいただくというかありまして、この地域と共に生きる力弁当の日についての報告をさせていただきたいと思っています。

続きまして殿田小学校です。殿田小学校も同じような形で進めてくださっています。ひとつ「感謝の弁当の日」という4番目に書かせてもらっている、項目が今年度新たに試みられる取り組みになっておりまして、6年生は送る会で今まで学んでこられたことを保護者に対して調理実習でしたメニューを弁当に詰めて感謝を伝えるというような計画をされています。2月ぐらいに予定されております。

美山小学校におきましては、弁当の日の実施もなく、本年度におきましては弁当作りの応援隊として食生活改善推進員の皆さんにお世話になって、本年度取り組みの内容として悩みながら進めていたところですが、ちょうど昨日、16日なんですけども交流会という形をもちまして学校と食生活改善推進員美山支部さんと保健医療課と3つのところで弁当の日が無理なく長くできるようにどうしたらいいかなということ、今年度を振り返りながら来年度実施に向けて話し合いを行っております。その結果、やめるということではなく、いろいろ寄り添いながら相談しながらこういう形やったら弁当の日が続けて行けるというような前向きの話ができたというふうに聞かせてもらっていますので、来年度も学校の目的、また、地域の人も一緒に交わりながら実施というふうに思っています。

あと、アンケートの報告になるんですが、弁当の日の実施校の児童・保護者・応援隊・先生方を対象にアンケートを行っております。アンケートは前の方は集まっているんですけども、終了後の方は随時行うことにしておりまして、また次回の推進協議会の時には報告をさせていただきたいと思っています。あと、弁当の日の取り組みを、南丹市外にも広く発信ということで、食生活改善推進協議会の八木支部の協議会さんと木津川市の食生活改善推進協議会さんの方が、この弁当の日をテーマに交流研修を10月に実施されています。あと、保健活動の助成、チヨダ地域保健推進賞というのを受賞しまして、内容的にはこの、「地域と共に支え、生きる力を育む弁当の日」というので発信をさせていただいております。

【会長】今の報告に対してご質問なにかないでしょうか。委員さんそこに入っておりますがどうでしょうか。

【委員】八木東小学校にはずっと入らせてもらって、子どもたちは献立することや調理することや、前はキャラ弁が多くてみせる弁当になってしまうのはよくない。せっかく作ったのを12月の9日にみんなが自分で買い物して作ってくるという企画であるから、教えてもらったのを一つでも作ってくるという目的で学校もされたんですけど、中には感想文に「見てほしかった」と。師匠と言ってくれるんですね。「師匠に習ったんを見てほしかった」とか、たまたま食改でだしをとるでしょう、昆布とかつおで。それにお弁当につめるんですけど。昆布とかつおを佃煮に炊くんです。その感想に「師匠ってすごい。ごみにならないし一品ができる、だしをとることと佃煮にできるっていう感想文の弁当の日の便りというのを学校が出してくれてはって、読まさせていただいたらすごく嬉しかった。たまたま6年生に孫がいて「ばあちゃんに教えてもらったの作っていく」って言ってましたけど、どうだったと聞くと「おいしかった」と言ってました。ただ殿田小学校がいいことをされているなど前からも言ってますようにPTAの方とか地域の方にこの弁当の日の啓発というか、せめてPTAの方に子どもが持って帰ってどこまで家庭に広がっているのかのかなど。そのへんの思いが子どもは素直に喜んでしてくれて、たまたま献立会議には行って都合が悪くて調理には行けなかった。そこの班に入ったら「なんでこないだ来てくれてはった師匠これへんの」言ってくれたり。まあそんなんで子どもと関わるっていうか、子どもは素直に100パーセント受けとめてくれるような私たちは楽しい活動させてもらってるなと思ってます。ただ今言ったようにPTAに、このさっきの図にもあったようにPTAとか地域におろしていければ。子どもの感想と親がそのいうPTAの中でちょっと話をね、そういう場所をとってくれば嬉しいなど。学校は学校で一生懸命、弁当の日には東小学校はやってくれてはって。あと一個PTAやなんかの場所に機会があれば嬉しいなと思います。

【会長】今の話をきいて思ったんですけど、結局弁当の日は地域づくりでもあるので基本に戻ってキャラ弁のようなもので競うというのはもうひとつかなと確かにそう思うんですけど、たとえば自分が作った弁当は師匠に教えてもらったこういうテクニックを使いましたみたいなね、こういう感想を添えて、たとえば地域の人とか、あるいは農作物を作ってくれた人とか、あるいはPTAの人とかに披露する場があったほうが広がりとしては広がりますよね。委員どうでしょうか。

【委員】今、八木東さんをベースにいろいろさせてもうてるんですけどちょうど低学年の子どもら6年生以外の子どもがラップのところで、それこそ師匠に工夫を教えてもらってこういうことを工夫したと低学年とかが見る機会を作っとるんです。それで総合評価するような形にはしとるんです。特に昨年度から今の目の前の子どもが30歳になったときに社会参加している、しかも自分で食べる分は自分で作れるようにしたいと大きな目標にはあります。ですから今おっしゃられた地域づくりもあるんだけど、いろいろな困難なご家庭があつてどちらかといえば親よりもその子が子どもがつくれるようにすることによって、たとえば朝おにぎりでも食べて来れるというような自立した子どもをね親がそういうふうな家庭的にうまく連携をとるようなご家庭やったいいんですけども、なかなかそうじゃないご家庭でもあるので。その子どもにしっかりと力をつけてやると。そういう目当てがあるんです。ただ家庭自身の発信とかね。実際にこんなん作ったというようなやつはどんどん発信してるので、そこらあたりも加えてやりたいなと思ってんですけど、うちは一番目指しているのはちょっと若干違うかもしれないけれど目の前のこどもがジェンダーにかかわらず男であっても女であっても30歳になって自分の食べる分は自分でつ

くれるというのを目指して。

【会長】基本はそうなんですけど。大賛成なんですけど、その姿勢をちゃんとできてない家庭の親がみたときに自分の子どもをみたら、頑張ってる子どもをみたらどう感じるかと感じてもらうためには見てもらわなあかんですよ

【委員】そうですね

【会長】そういう意味でなにかね、地域とかPTAとかそういうところに発信できる場があったほうが子どもが変わったら親が変わるという考え方ですのでとりあえず見てもらわな話としては始まらないので、一番の根本の目標は今委員が言われたように30歳で自立、必ず自立した子どもを育てなあかんと思うんですけど、それが30年続いて親が全然かわらへんかったらそれならうちの子どもはこんな風に勉強して自分は何もやってはらへんけど子どもが勝手にやってくってなったら親もその姿をみて自分も変わらなあかんかなって、そこまで思うかどうかしりませんけどそんなんを見てもらおうと思ったら見てもらわなあかんかなと

【委員】うちはただ低学年にはみせてるんやけど、写真全員撮ってその写真は家に持って帰るようにしています。直接その場には居てもらってないんやけど、自分の子どもにはこれを作ったというのはわかってもらえるようにしてるんです。でもまたいろいろと取り組みを考えていきます。

【会長】僕は今第二小学校さんは頑張ってやってくれてはるのはこれを見て思いました。もっと発展的な展望とか、前から言っている自分で作ったものを売るとか社会のお金の流れはどうなんとかそういうのを学ぶという意味ではもっともっと発展的であっていいんかな。いつも去年と同じとなってしまうとマンネリ化してしまう。子どもに1、2年生と学んできた子どもが6年生になった時に、先生こんなんしたいやけどどうやって言える機会もあったほうがいいのかな。弁当の日についての話し合いというので先生と食会さんとか集まって今度どうするとかいうそんな機会を持ってもらってなにか新しいアイディアができて発展的な取り組みができたいいなと思ってるんですがどうでしょうか。

【委員】今3年生でお味噌づくりを豆できてやってもらったりとか、芋できてふかし芋つくったり、川辺で菜園したので川辺地区に行かせてもらって、そこの方も喜んでいただけるし、さっきおっしゃっていただいたように作る時もコミュニケーションがある。実際に育てるときのコミュニケーション、米づくりで今日、感謝の会をやって、5年のやってるやつで生産者に来ていただいてカレーライスを一緒に作って、寸劇を見せて喜んで帰っていただいたんですが。命をいただくということとともにその人の苦勞であるとか、自分も命を作ってもらっている。人とのかわり、それが作る時もそうやし、生産者、生産する農家の方のように四六時中水やりして水管理しなあかんんですけど、いいとこしかやってないんですけどね。

【会長】せっかくうちのいっぱい食の団体がありますので、たとえば委員さんなんかね、そういうかわりが生産者とのかわりがありますし、そういう方が学校に入ってもらって話をしてもらうとかいうのはいいいんかなと思うんですけどどうですかね

【委員】美山の小学校さんはやられてないみたいなんですけどね、委員で生産者の会といのがあってカラフル野菜という栄養豊富な野菜を作っている。小学生の方も生産者と苗植えをしている。料理教室も企画したが自由参加で二人の親子の方が参加されたくらいで、一般の方も募集しているので来ていただいて、その子どもさんはおいしいとって食べてくれましたが。子どもさんは

結構土日は忙しいみたいで、いついつやったら来れるかなっていう日に設定したんですが、たまにそこが空いてるだけであって子どもさんは忙しいみたいです。

【会長】この前美山中学校へ性教育の講演にいったんですけど、PTA の人がね一学年が10名で、後ろにお母さんがいっぱい来てはるんですよ。あれ何で多いのかなと思っていたらやっぱり、去年やっていたひとの「あの人の話きいたら面白いで」とロコミで広がったみたいでたくさん来てくれはったみたいで。なにか取り組みを継続することで増えていく可能性はあると思います。

【委員】2年目なんですけども来年もするような形では考えています。なかなかスタッフも結構ね、私もかかるとでなかなか実施できないというのがあって、今年初めてできて、地域で畑に行き地域生産者の方というのは去年からしてるんです。

【会長】ぜひ続けてください。PTA とはどうでしょうか。

【委員】僕は園部小学校なんですけどこの年次推移をみているとずっと4校のまま現状維持されて。4校じゃなければいけない理由はどこにあるのかということもあって。目標としては来年は1校増やす、再来年はもう1校とやってて意見がでてみんなでやって直すべきところは直して改善するところは改善して、ある意味南丹市に住んだら健康になれると宣言している以上は小学校に4校だけは健康になれるけどそれ以外の小学校は健康になれる感じになってしまうので、できればそれをやっぱり目標としてじゃ次はこの小学校は来年やろうとか、そのためにどういう活動をしようとか、どういうことをやっていこうというのをやってもらえたらいいかなとは思いました。

【会長】いいところについてはるんですけど、ぼくももっと増やしたいと思っているんですが結局じゃあ誰がやるかってなると先生がやろうとってくれはったらやれます。じゃあ先生がその気になってもらうにはぼくらはこんな取り組みをやりました、子どもはこんな感想答えています。そういうデータを積み重ねていくことが一番大事で、どっかで発表・発信するという活動をといてないかと先生もやらなと言いませんからね。先生に心動かしてもらうためにはそれなりの取り組みを地道にやるっていうのはやっぱり一番大事なんかなと思います。4校しか増えないのは残念なんですけど。

【委員】とてもよい取り組みを続けて見せていただいているところです。本当に広がってほしいなというふうには思っで見せていただいています。

【会長】副会長どうでしょうか。

【委員】話はなれるかもしれませんがこの改定版の南丹市が目指す姿ということで市民が生涯を通じて健康でいきいきとくらす街ということで日常的に健康に暮したい、生活していきたいということでそのためには運動であったり食育であったり健康づくりが必要かなと思いますしそのことによって地域づくりも進んでいくのではないかなと思います。なかなか食育いろいろな小学校の児童を中心にお弁当の日を作ってされておるんですけどなかなか取り組みとしては難しい状況であるのではないかなと思います。委員さんもおっしゃられた通り、実はそう思っておりまして4校に限らずできるだけ多くの学校でこういう取り組みができたら素晴らしいし、望ましくおっしゃっていました。ですのでそういう形でお取り組みいただけたらありがたいなというふうに思います。

【会長】どうしたらいいんだろう

【事務局】美山小学校のことがここに書いてありまして報告したんですけども、昨日美山小学校については5月の段階でお弁当の日はしませんと言われていたので、保護者のかたで朝からお弁当を詰めてはいけないのでその日は学校を休ませますというお家があってできないんですということがあったんですけども、それでも「なんとか子ども達に調理意欲をつけてほしい、生きる力につながる調理っていうところへんを学校でも体験させてやりたい」ということで、今年については自分たちでレシピを考えて一食分を作るということを家庭科の実習でされました。それで調理実習の日には生活改善推進員さんに見に来てくださいということで、どんな感じかなメニューを見てみるとバラバラですし、こんな時間でこんなことができるんやろうかというメニューがあったんですけども子ども達は自分でつくったメニューなのでそれを時間内に楽しく目をきらきら輝かしてやったという事実をもらいまして食改さんもそれをみていて絶対に手助けしないでくださいって言ってはったし、人参もなたみたいに縦にして切っていた子もいてそれは横にして切らんと危ないで見守りしながらいえたんやけどという実態をみて自分でメニューをたてて自分で調理をする。調理については見守りがすごくいるんやけどすごく楽しい授業やったということで一生懸命子どもたちが調理をしましたということで、お弁当の日は学校としてできないけれども1月にお弁当の日があるので自分で入れてきますという子もいましたし、冬休みには親御さんの食事を僕が作ってあげるというて子もいますし、さっそく土日にはもう作ってくれた子もいた環境があったということを書いています。先生は、お弁当の日はできへんけども家庭科の授業というのは毎年あるのでこれを続けていきますので食改さん、コミュニティースクールのメンバーに入っていて手伝いにきてくださいと言われてまして、ほかの学校でもこういう形で調理力をしっかり作っていきけるようにできたらいいなと思いました。

【会長】ひとつは子どもが自分で作ると決めて自分の意志でやったらできるってことですよ、もうひとつは学校のなかでそういう子どもの親御さんがおらはって、じゃあほかの子どもは学ぶチャンスをなくしたらあかんですやん。そうしたら、その一人のがあかんと言って辞めてしまうのではなくてじゃあできへんのならどういうふうにしたらできるかっていう今家庭科の授業使ってやろうやるというそういうことなんやと思う。最初に委員がうちではできませんといわはった時にどうしたらできますかと質問したらよかったんやと思います。園部小学校もなんかできる方法ないですかと聞いてもらったら園部小学校もできるかもしれせんね。

【委員】その通り、どうやったらできるかを考えた方がいいと思います。できない理由はなんぼでも…でもどうやったらできるんですかというところをやっていかないと、尻つぼみにこの弁当の日も終わってしまうと思うんで、みんなでどうやったらできるか、お弁当じゃなくてお弁当の中の一品を皆でつくろうとか、一品作ってまた一品作って最後はお弁当にしようとか、工夫したら何ぼでも出てくるんで、知恵を出さないとは思います。

【会長】ありがとうございます。ちょっと時間も押してきましたので、次、いきいきインターバル速歩の活動報告をお願いします。

【事務局】いきいきインターバルウォーキングについては数年前から南丹市としても取り組んでいた事業だったんですけども、今回、明治国際医療大学が中心になって、この11月から23日

を皮切りに12回シリーズで実施をしているということです。効果については、体力年齢が10歳若返るというデータのもとに実施をしており、主催は大学の斉藤先生が中心にされているわけなんですけども、ここの書かれていないんですけど、明治国際医療大学地域連携推進センターというものをここにに入れていただけたらよろしいんですけど。あと、南丹市保健医療課、南丹市教育委員会がバックアップしていただく中で実施が始まったということです。なぜ明治なのかといったところなんですけど、後ろの写真をちょっと見ていただきたいんですけど、後ろに写真があります。まず、明治には学生がたくさんいまして、学生の講義の一環ということもありまして、土曜日を使って実施をしているということ。ですから学生たち自身も、こういった住民の方に支援をさせていただくことで、コミュニケーション力をつけたりというメリットがあるということ、もう一つ下の方に広い運動場があるのをお解りだと思んですけど、ほんとにきれいに整備された広い運動場が明治にはありまして、ここでは学生たちが土日も含めて毎日運動をしまして、そこを使って住民の皆様にインターバルウォーキングをしていただくというところで、こういう自然にも恵まれた場がある、とてもいい場所です。で、もう一つが明治っていうのが大学研究者専門課家がおりまして、インターバルウォーキングを続けることで身体面のメリットだけでなく、そのことが一人一人の健康に対する自己管理というような健康意識を高めたり、あるいは心の健康を高めたり、睡眠を良くしたり、あるいは生活満足度を高めていくという研究データもあるんですけど、そういった研究もしていくことで南丹市民がインターバル速歩を取り入れて、いろんな面で総合的に健康都市南丹というところにふさわしい良い変化・効果が期待できるんじゃないかなっていうところで取り組むんですということになります。登録は45名くらいの申し込みがありました。地域住民と大学関係者も参加しているんですけど、初日は40名の人に参加をさせていただいたということで、12回継続して行うんですけども、ということでそういった南丹市民の健康づくり・健康意識づくりをより高めていくように取り組みをしていきたいと思います。以上です。

【会長】ありがとうございます。何か質問はいかがでしょうか。この、結果のところでは参加人数89名登録で、実際やった人が43名ということですか。

【事務局】あ、申し込みが43名となっていますね。

【事務局】今一つ回させてもらおうと思ったんですけど。学生が授業の中でチラシを作るということで、19枚作ったということで、それを選ばずに先生がこれは学生が作ったので全部作るからということで、皆さんにご案内を差し上げたときにいろんなチラシがあったと思います。学生もこのある事業に参加して呼びかけにも参加する、運営にも参加する、それで課題とかそういうところについては、学生も一緒に考えるという形で、そういう企画でやっていただけてます。楽しいことですね。

【会長】そうですね。これを年に何回でしたっけ？

【委員】12回。

【会長】12回ね。12回をいかにこの43名全員が完遂できるか、これがめっちゃ大きな課題になると思う。そのためには、次回も来ようという動機を作ってもらわないかん。それを学生に考えてもらうのってめっちゃ大事やと思う。だから、それをあなたの成績にも反映されます

よと、43分の43あったら全員「優」。そんな餌もつけて何かやったらね、1回目はたくさん行くかも知れないけど、どうしても減る傾向にあるので、それをいかに来てもらうようにするか、その43名がまた宣伝をしてくれはるやろうし、うまくいけば広がると思うんですけどね。

【委員】学生も参加者が暇にしておられたらその時間を利用してストレッチ体操やとか教えてくれるけど、柔道整復師学科とテコンドー指導士も資格が取れる人かな。

【会長】だから、それを指導してもらえるのはいいんやけど、教えるというのは上からやられる感じでしょ？じゃなくて、私こんなやりたいわと思わせるようなコミュニケーションの取り方を勉強してほしい。これがいいんですよとかあれがいいですよというのはおそらく誰が言っても同じようなことなんです。それよりも、じゃあ次はあんたがおるし来るわみたいな気持ちを起こさせるような話し合いというか、大学内での話し合いを前もってしてほしいなあと思います。

【事務局】確かにいろんなことを教えてくれはるけど、住民の人も上手に励ましたりしはるんです。ほんとに対等な感じでいろんな場面が見られました。

【会長】だから、お互いに吸収できるところはしてできたらいいですよ。他にいかがでしょうか。健康会の人には来てはらへんな。老人クラブの委員さんどうですか。

【委員】1回私らの行事の時に、先生にちょっと、初めてになりますけど、各〇〇では歩こう会というのでそれぞれ取り組みの回数は違いますが毎月やっていますので、同じ今回もやるならこういう効果の上がる歩き方という風に思っています、いろんな催しの時に先生に来てもらおうかなという思いはしてたんですけどね。ちょっと今年は…

【会長】事務局さん連絡とって。すぐに。

【事務局】歩き方でやっぱり10年若返るか、普通に頑張っても1時間歩いていてもおんなじかと書いておられたので、先生にぜひ言っていたいで、コツやとか是非…

【会長】情報を伝えないかんで。聞いて伝えてじゃお願いしますと。

【事務局】上手につなげます。

【会長】次の時発表してや。他にいかがでしょうか。

【委員】ちなみに何歳から何歳までぐらいなんでしょうか。一番下は何歳で、一番上は何歳くらいの方が参加されていますか。

【事務局】40代から80過ぎの人まですごく幅広い方が参加されています。

【会長】何歳でもええん違うの。若い人に学んでもらって、他の人に教えてもらえばいい。次に行きたいと思います。その他のところ、健康アンバサダーの養成講座の方をお願いします。

【事務局】資料9ページです。健康アンバサダー養成講座の報告をさせていただきます。まず、本講座を実施した趣旨について説明します。南丹市では、住んでいるだけで健康で幸せになれる町を目指して健康都市プロジェクトを推進しているところです。健康寿命を延ばすためには健康づくりを核としたコミュニティの活性化や自然と歩きたくなる街づくりを進める必要がありますが、その準備段階として健康への関心を高めることが課題となっています。日本健康都市連合では住民は健康を意識する行動変容について口コミの効果が高いことが明らかにされています。健康に無関心といわれる層に届く情報を伝え拡散する役割として南丹市の健康アンバサダーを養成しました。日程については8月7日に午前と午後の2部会開催で国際交流会館を会場として

100名の定員で募集させていただきましたところ、91名の方に受講いただきそのうち89名の方に健康アンバサダーとしての登録をしていただくことができました。今回受講者への特典として、スマートフォンを利用した健康アプリの利用を皆さんにお勧めしていましたが、登録段階からスマホの利用に躓かれる方も多くて、利用者は19名に留まっています。当日の実施内容としては筑波大学の久野教授と栄養士の資格を持った講師さんにお越しいただきまして実技を交えた楽しい講座を行っていただくことができました。健康アンバサダーになっていただいた方には、口コミで健康情報を広げていただくために年に4回健康アンバサダー通信を送付することになっており、11月に1回目の送付をさせていただいたところです。以上です。

【会長】ありがとうございます。今の報告について何かご質問はいかがでしょうか。これは、アンバサダーになったらどんな得があるのでしょうか？

【事務局】年に4回は健康相談の通信を受け取っていただける。あと、認定証をどなたにもお渡しすることができまして、チラシ配布の際に、アンバサダーになったよと言ってもらえる。

【会長】それはインセンティブにはならへんなあ。やっぱり何かないと。そんなん持っててもどうかなという気もするんですけど。

【委員】私もこれ出さしていただいて。食改員である以上はね、話はよくわかってアレでしたけど、講座受けて資格もらっても全然…その辺が先生が言わはるとおりイコールでは結べない。

【会長】何かいい特典があるとね。何とかポイント100点あげますとかね毎年。なんかないと食いつきが悪いん違うかなと思うけどねえ。どうでしょう。

【委員】クオカードとかそんなんでしょう。

【会長】なんかあったねえ。神戸市とか。そんなお金ないよね南丹市。何かそれをする事によってメリットが生まれるようなことをちょっと考えてもらった方が広がるのと違うかなと思いますが、どうでしょうかね。委員さんどうでしょうか。

【委員】そうですね、履歴書に書けるとか。

【会長】南丹市公認。それええですよ。それならタダで行ける。これ、一文に「履歴書に書けます。」て書いといたらいい。

【事務局】まず、意識付けをアンバサダーの方にさせていただくのが一つですけども、その中で市としても健康都市というものを目指しているという位置づけをしっかりと市が打っていくと、この人たちを使って広げていきたいと思いますという話をしていかなければならないのかなと思っておるんですけども、そこがまだちょっと弱いところかなと。

【会長】まず、これになることによって何か得することがあって、それが千人くらいになってきたら自然に広がっていくんじゃないですかね。何十人程度で賞状をもらってももう一つというか…なんかいい方法、南丹市公認がええと思うわ。

【委員】そうですね、すごく楽しくていいと思います。いろいろとお話を聞かせてもらっていると、食育だったり、健康でお年寄りが参加することだったり、小学生や中学生や、大人も子供も参加するいろんな取り組みがいろんなところでされているんだなと感じるんですね。で、さっきのポイントですけど、いろんな行事に何か取り組んだらまとまったポイントがずっとたまっていくようなことがあれば、家族全員が何かすればポイントがたまる。たとえば乳幼児健康診断だっ

たら、むし歯ゼロが何年続いたらポイントがもらえとか、健康診断で何も引っかからなかったらポイントがたまるとか、アンバサダー養成講座行ったらポイントが10倍になるとか、そういう南丹市の健康づくりの意識付けの中の一つのまとまったポイントですよというのがあったら、お弁当の日に頑張ったら、みんなで人気投票して1位になったら5ポイントになるとか、全部がまとまったのがあつたりすると楽しくていいかもしれない。僕も私もおじいちゃんもおばあちゃんもやるわ！みたいな。速歩頑張って全部出席したら50ポイントもらえとか。そういう民間のアイデアをもらってくるとか。

【会長】うん、いいね。ポイント制や！ポイント！何とかペイと一緒に。ポイント集めたらええかもしれない。いろいろアイデアを考えてください。

【事務局】いろいろ考えていきたいと思います。ありがとうございます。

【会長】それでは、次。あまり時間がないですけど。

【事務局】時間がないので簡単に説明させていただきます。11ページをお開きください。現在南丹市健康づくり推進協議会では皆さんに集まっていたらご協議いただいておりますけれども、南丹市が健幸都市南丹を目指すということで、そういう言葉をちょっと入れて行こうと思っております。それで、健康づくりの「こう」を幸福の幸にしまして住み続けることで健康で幸せになれる町、健幸都市南丹を目指すとともに今後さらなる健幸都市の実現に向けてこういうことで頑張るということをちょっと意識的に入れまして条例を改正していきたいと思います。それと、委員人数についても増やしてやっていきたいと思っておりますので、また、来年度改正をしていきたいと思います。以上報告です。

【会長】ありがとうございます。何か質問はどうでしょうか。

【委員】ちょっとよろしいでしょうかね。私、市議会の方から出させてもらってるんですけど、質疑の3条なんですけどね、市議会議員というのが削除をされとるんです。他のところも削除されて、一番が学識経験者というところから始まるんですけどこのことについてはどうなんですか。触れていただいてよろしいですか。

【事務局】実は、こういった委員会ですね、審議会については予算を伴ったり、審議をしていただく審議会とか議員さんの中に議会の議員さんが入っていただくというのは、大変なのかなと。そういったことも聞かせていただいていて、市全体として議会の議員さんについては外していくような方向が出されていたように思うんですけど。

【委員】うちの事務局とは調整できとるんやね。

【事務局】今の段階では、これはまだこういう風にしていきたいですよということですので、むこうとは協議をさせていただきますけども。その中の話ではそういうことになっております。議員さんについては審議の中に入ってくださいと次の議会での審議に影響があるのかなと聞かせていただいたので、今回ちょっと外していこうかなと思います。

【委員】条例改正ですので当然議会にもかかると思いますんでね。その前に、事務局と言いますかそこでの打ち合わせは十分にさせていただいたうえでお願いをしたいと思います。

【事務局】復活するかもしれないんで、その時はよろしくお願ひします。

【会長】ちょっと、驚きの部分で…課長がおっしゃった意味からすればね、なぜこれができたと

きに、その議会議員が入っていたのかなと思える部分でもあるんですよ。実は。考え方としては、僕はここで話し合った内容を議員さんに広めてもらうという意味もあって、僕はそういう意味ではおってほしいなとも思うんです。興味のある人ですけどね。

【事務局】こちらとしては有難いことですけど。

【会長】手あげが何かで、わしなりますという人になってもらったらいいじゃないですか。学識経験者で。

【事務局】そういう形なら。十分議会なり、市の方向性の中での検討をさせていただいて、今回はこういうことでいきたいと思っておりますけども、十分検討させていただきます。

【委員】一応案ですので、決定ではありませんので、そのあたりを十分詰めていただいたうえで検討いただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

【会長】ありがとうございます。何かこの場で言うておかないといかんことはないでしょうか。時間5分過ぎましたんで、それでは議事はこれで終わりたいと思います。では、事務局お願いします。

【事務局】ありがとうございました。非常に多くの意見を活発にいただきまして、私たちもまた持ち帰りまして議事の方を進めて行きたいと思っておりますのでよろしくお願いします。せっかくの機会ですので、他に何かございませんか。オブザーバーの方向かありませんか。

【オブザーバー】ちょっと宣伝で申し訳ないんですけど、社会福祉協議会、地域包括支援センターの方で地域ケア推進会議というのが、年に2、3回できたらいいなというのでしてるんですけど、来年になります、3月10日になるんですけど、今年度第2回をさせていただきます。春日先生って言いまして、いろんな大学の教授とかもされている先生なんですけど、その先生を今度およびして、ちゃんとしたタイトルが思い出せないんですけど、100歳までの身じまいの作法というようなことで、終活とかいろいろ言われますけど、身じまいする作法の話をしていただく予定で、いろんなところでお話しされている先生ですごい面白いとかとてもためになるという噂を聞いて、南丹市でも呼ぼうという話をしていきますので、また皆様にも案内を出そうと思っておりますので、ぜひよろしくお願いします。

【事務局】ありがとうございました。それでは、閉会にあたりまして平田副会長からいただきます。よろしくお願いします。

【副会長】失礼します。本日は年末ということで、大変お忙しい中を出席いただきまして、本日も活発な意見をたくさん出していただきましてありがとうございました。司会の先生が上手に進めていただきますので、たくさんの中身をうまく時間内で納めていただきまして本当にありがとうございました。大変貴重な意見が多く出されておりますので、これを南丹市の健康づくりに活かして頂ければと思っております。今後とも皆様のご協力と貴重なご意見を賜りますようお願い申し上げます。本日の会議を閉会とさせていただきます。本日は大変ご苦労さまでございました。ありがとうございました。

以上